

# 日本で暮らす難民の生活と人生の記録——在日ラオス定住者の過去遡及的な生の記録とミャンマーのカレン難民が日本へ再定住する進行形の生の記録

代表者：岩佐光広（高知大学） 共同研究者：久保忠行（京都大学）

■目的 インドシナ難民と第三国定住難民の受け入れを通して、共生社会のあり方を探求する

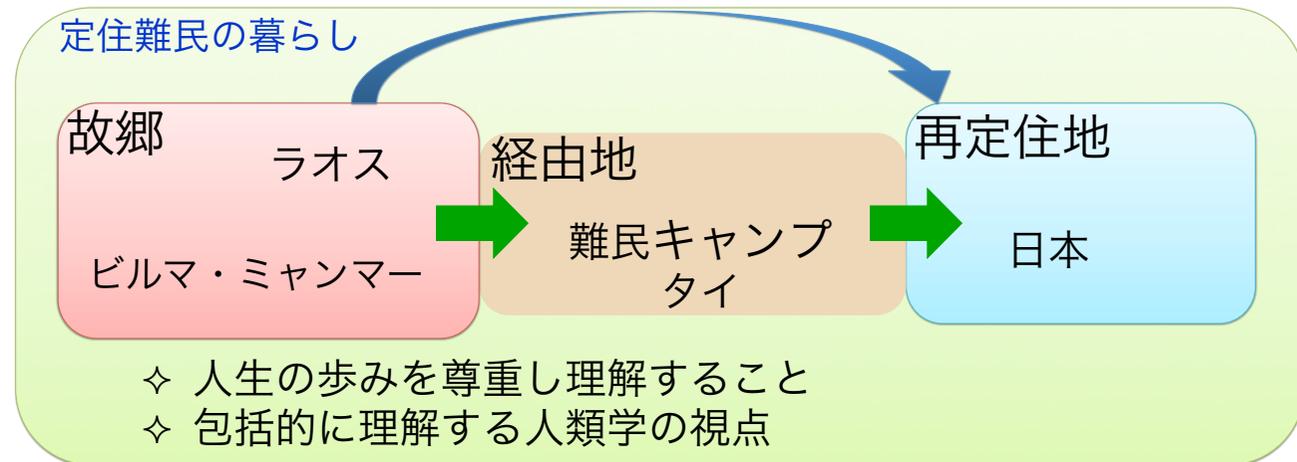
## ■対象

- ◇ ラオス系定住難民
- ◇ カレン定住難民

## ■研究方法

- ◇ 文献研究
- ◇ フィールドワーク  
（兵庫県、神奈川県、東京都、三重県）
- ◇ 参与観察と聞き取り

## ■研究の特徴



## ■成果

ラオス人：彼らなりの暮らしを構築する（食材確保、相互扶助組織をつくる、高齢化への備え）

「インドシナ難民の教訓」に加えて、カレン難民の個別性にも配慮する

カレン人：長期的な難民としての経験、戸惑い（就労体制・生活リズム・日本語）、望郷の念、試行錯誤

## ■展望と課題

- ◇ 継続した調査と制度構築に向けた提言
- ◇ 「定住」の鍵となる“普通の日本人”に正しい知識を伝える

報告：久保忠行

